

## < 買い物環境および買い物行動が高齢者の健康状態に与える影響についての縦断的研究 >

研究年度 令和元年度

研究期間 令和元年度～平成 年度

研究代表者名 竹内昌平

### I. はじめに

近年、「買い物環境」と呼ばれる生鮮食料品店など生活に密接している店舗の有無が、住民の食生活、栄養素摂取量、健康状態に影響することに注目が集まってきている。この分野に関し、個人の移動、つまり買い物行動まで加味した研究はほとんどない。

本学の所在地である長与町を含め、長崎県は坂が多い地域として知られている。そのため、高齢者は移動を制限されるなど、生活に不便を強いられていることがあり、「買い物環境」が不十分な可能性が考えられる。

研究代表者は、昨年より買い物環境と買い物行動を含む生活行動圏に関する縦断的な研究を開始させ、高齢者の生活行動の様子を確認してきた。

本研究では、対象者を追跡調査し、1) 買い物環境および買い物行動における移動距離の経年的な変化、2) 買い物行動を含む運動量を調べることで、「生活行動圏と高齢者の健康の関連を明らかにし、高齢者の将来的な健康に貢献する」ことを目的としている。

### II. 研究内容

本研究は、長崎県内在住の健康な住民（40 名：52～89 歳）を対象とした長期縦断研究の一部として行われており、以下の内容は、長期縦断研究のうち、本研究のみに関わる内容となっている。

#### 1. 質問紙調査

昨年度作成した、買い物頻度、買い物先への移動手段、買い物での不便や苦勞、買い物先までの不満のない時間、普段よく行く買い物先および買い物先別の選択理由を尋ねる自記式の質問紙「健康状態と生活環境に関する質問」を用いて今年も状況を尋ねた。

#### 2. 説明会と調査

説明会および調査は 10 月～11 月にかけて行った。質問紙への回答は、参加者の同意を得た後、長期縦断研究で行われる測定と同時に行い、31 名（男性 12 名、女性 19 名）から回答を得ることができた。

生活行動圏に関わる位置情報の測定は、GPS 機能付き腕時計（ForeAthlete 735XTJ と ForeAthlete 245）を用いて行った。参加者に 2 週間使っていただき、外出する際の位置情報を記録した。

### 3. データ解析

今年度の質問紙への回答、および位置情報に関するデータは現在入力、および解析中である。昨年度からの解析の続きとして、GIS（地理情報システム）を用いて、対象者の位置情報から直線距離と移動距離を計測した結果、日々の移動距離に上限が認められつつあり、今後は運動量も含む行動自体にも注目する必要性が示唆されている。

### 4. 対象者へのフィードバックおよび結果報告

対象者へのフィードバックは現在、新型コロナウイルス感染症の流行のため、未定としているが、長期縦断研究全体の報告と合わせて行う予定である。また、研究成果の報告も、国内の学会において報告を予定している。

## Ⅲ. 研究成果

昨年度報告したとおり、本研究の対象者は、買い物頻度、買い物先までの移動手段について、週 3～4 回、自動車を用いると回答したものが最も多い。

GPS 機能付き腕時計による移動情報を調査した結果、1 番よく行く買い物先までの直線距離は 4km、移動距離は 6km 以下であった（下図）。

## Ⅳ. おわりに

本研究は、長期縦断調査の一部として行われており、今後の継続し、経年変化を見ていく必要がある。結果からは、健康な一般住民であることが見て取れるが、対象者が年齢を重ねていくにつれ、栄養状態と買い物環境を含む生活行動圏の関連がどのように変化していくのかは、今後も注目していきたい。

